

『第1回 Tsuku-場 フォーラム』アンケート集計結果

◆多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。簡単ではありますがアンケートを以下のようにまとめました。

- ・開催日： 第1回目 2012年10月8日(月) 13:00～17:00
- ・場所： 筑波大学 東京キャンパス
- ・内容： 組織の中で自分らしくあるために
- ・講演者： 金井篤子氏(名古屋大学大学院教育学研究科 教授)

参加状況

申し込み人数	抽選者数	参加者	アンケート回収数
158	158	124	88

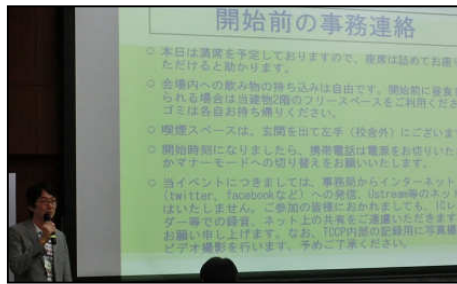
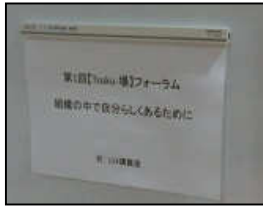
Q1.満足度について

とても高い	高い	普通	低い	とても低い	未記入	計
44	37	4	0	0	3	88

◆アンケートに書かれたコメントの中で、代表的なものを抜粋しました。

- ・自己理解ができていると、組織の中・外問わず、自分らしく生きられるのではないかと考えにとても共感しました。
- ・リフレーミングにより別視点を提供することで悩める人の役に立つ可能性があると感じました。
- ・金井先生の「分化と統合」の意味が良く理解できました。組織の中で、自分らしくあるために、個人として努力することはないか。組織・社会全体で仕組みとして整えるべきことは何かが少し整理できたように感じています。個人的には金井先生の「自分ができることは精一杯やって社会を推進する」という志に共感し、自分もそうあるためにどうことができるかを改めて考えたいと思います。
- ・ワークとライフを並べてバランスを取るというイメージでおりましたが、相対化、総体化という概念を学んだことで立体的なものごとを捉える事が出来るようになりました。特異性クレジット仮説、リフレーミングという概念を知ったことも大きな収穫でした。「構造こわし」今こそ必要なので。
- ・ワークライフバランスの本来の姿が「組織の中で自分らしくあるために」であることがわかりました。企業側としては休暇や時短などの制度作りしか施策として対応できないことは分かりつつ、個人個人の考え方、置かれている環境の違いに個別に対応でき、個が満足できる仕事と人生のバランスがとれるようになることを将来的に実現できるといいなあ強く考えます。
- ・育児に関連してのワークライフバランスが主になっていましたが、介護などが社会的影響が大きいように感じました。
- ・中小、零細企業でどうシステム化していくかが課題。コミュニティレベルでの相互扶助ができないか商工会議所などの活用。子供の頃からの意識づけ(教育)も必要だ。
- ・組織の中で仕事しており、個々の個人が発信する場を作ることが必要であると再認識した。上司と部下の関係の中で、新しい枠組みを語る事が重要であると感じた(トップのメッセージも重要であるが、近い存在が発信するメッセージは影響があると思う)。
- ・メンタル不調者が多く、予防策を多く実施する企業にありますが、メンタルヘルス支援のみでは、相対化のみに終始しがちに感じました。ケア対象者は、弱っている場合は相対化し、客観性を取り戻す必要があるものの、回復期や適応して順調に働いている時期に(脳の処理容器が多く、フリーズしない時に)総体化するような取り組みも力を入れるべきだと思いました。
- ・「自分らしさ」とは何だろうか？今はわからなくて、後になってそう思えるものかもしれない。今の仕事に集中し、打ち込むことの楽しさを知ること、キャリアは、ブランドハップンスタンスででき上がることが多い。小さい頃から、学校、地域の「よき市民」として、自律する教育が脆弱化しているため、社会に出てきたときに未熟。「良き市民」としての個の自律を、企業は何をしていったらよいか。
- ・日々の仕事の中で、分業の精緻化に対する危機を感じています。...が、効率性を優先してしまうのが現状です。ただ、すぐに解決することを考えるのではなく、危機感を常に頭に置きながら、状況によってはリフレーミングすること、俯瞰して立ち止まることを実践したいと思います！構造こわしができるようなリーダーになれることが理想です。
- ・いろいろな仕事をしている方とお話しできたことはとても貴重な体験でした。私は普段、学校領域で仕事をしているのですが、組織・産業と学校は連続線上のものであり、共同研究やシンポジウムなど一緒に社会に対してメッセージを発信していくことが出来るのではないかと考えました。
- ・現場での創意工夫「今、私にできるマイベストを尽くす」と決意しました。

◆当日の様子



事務局連絡

開始のご挨拶

金井先生ご講演



活発な意見交換



付箋紙による質問の集約



質問に対する回答や新たな示唆



TCCPのご紹介



終了のご挨拶